

リバウンドトノメーターの新展開

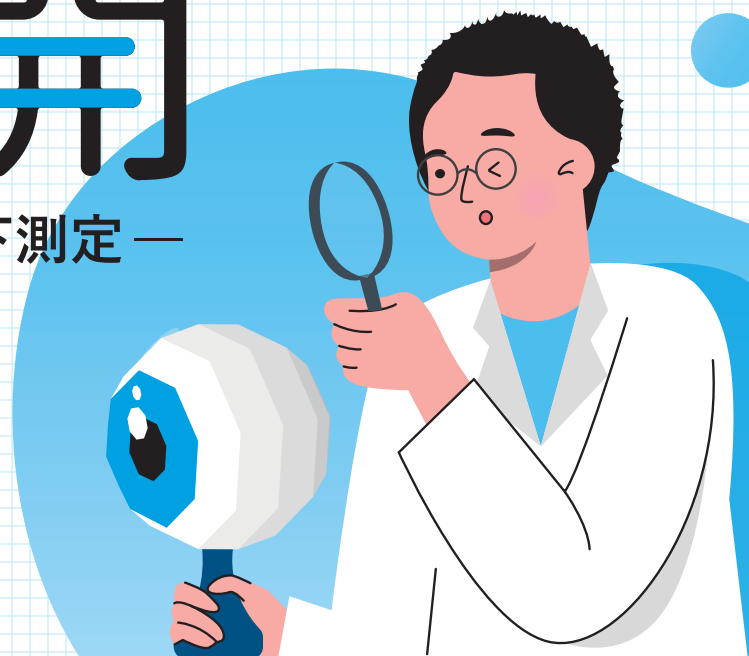
— 在宅測定とスリットランプ下測定 —

2026年

10月31日(土)

11:25~12:15

ザ・プリンス京都宝ヶ池 1F ロイヤルルーム 第14会場



演者1



生杉 謙吾 先生

三重大学大学院医学系研究科 眼科学 准教授

リバウンドトノメーターの現在地

演者2



富田 遼 先生

名古屋大学 医学系研究科 客員研究員

アイケア ST500 眼圧計による眼圧測定の新展開

演者3



谷戸 正樹 先生

島根大学医学部 眼科学講座 教授

アイケア HOME2 手持眼圧計の使用経験



座長

生杉 謙吾 先生

三重大学大学院医学系研究科 眼科学 准教授

【経歴】

1995年 三重大学医学部 卒業
2001年 三重大学医学部眼科学教室 助手
2003年 米国ネブラスカメディカルセンター眼科
2007年 三重大学大学院医学系研究科 眼科学 講師
2008年 名張市立病院眼科部長 /
三重大学リサーチアソシエイト兼任
2013年 三重大学大学院医学系研究科 眼科学 講師
2019年 三重大学大学院医学系研究科 眼科学 准教授
現在に至る

眼圧測定は、緑内障診療をはじめ眼科診療全般で日常的に行われる重要な検査です。今回、第80回日本臨床眼科学会共催セミナーにおいて、リバウンドトノメーター(RT)をテーマに、RTによる眼圧測定の現在地と今後の可能性について議論する機会をいただきました。

RTは、これまで携帯型眼圧計として広く認知されてきましたが、近年、その役割は家庭用の眼圧測定やスリットランプ下での測定へと広がりがつつあります。本セミナーでは、まず生杉より、IC100/IC200などの携帯型機器に加え、主治医の同意のもと患者さんご自身が購入またはレンタルして利用できる家庭用眼圧計アイケアHOME2を含め、RTの現状を概説いたします。続いて富田先生には、スリットランプ下での眼圧測定を可能にするST500の特徴と今後期待される展開についてご講演いただきます。さらに谷戸先生には、家庭用眼圧計の臨床的意義と実際の活用法についてお話しいたします。

講演後には、会場の先生方と演者によるディスカッションの時間を設ける予定です。本セミナーが、日常診療における眼圧測定を改めて見直す一助となれば幸いです。